

菜の花・ひまわり咲かせて街おこし

NPO法人

バイオライフ

※ 4月18日「バイオライフ」は正式に
NPOに認定されました。

衣・食・住・エネルギーの地産地消をめざす

NPO法人バイオライフ について

スローガン:

**ゆたかで自然と人との調和した
暮らしよいまち」の実現**

- 「バイオライフ」は2008年4月18日にNPOとして正式に認可されました
- 会費:正 会 員 5,000円/年(入会金は無し)
協力会員3,000円/年(1口)(入会金は無し)

衣・食・住・エネルギーの地産地消をめざす

NPOバイオライフの役員

- ・理事長 松田敬治 (有)松竹梅企画代表・元キャン(株)
- ・副理事長 安友純 ミスクリンケア(株)・食品衛生管理士
- ・理事 田中智 エーベルバイオクリーン(株) ミスクリンケア(株)
早稲田大学社会システム工学研究所客員研究員
- ・理事 塩川富士夫 (株)相互サポート代表/菜の花ネット事務局長
- ・理事 新沼和彦 早稲田大学社会システム工学研究所客員研究員
理学博士(バイオ) 東京医科歯科大学講師
- ・理事 松田百合子 (有)松竹梅企画役員・薬剤師・アロマイストラクター
龍ヶ崎市行革推進委員・ゴミ減量審議委員
- ・理事 長塚哲男 元岡堰土地改良区事務局長
- ・監事 阿部守利 ミスクリンケア(株)専務取締役
エーベルバイオクリーン(株) 代表取締役社長
国際経営学修士MBA
早稲田大学社会システム工学研究所客員研究員

衣・食・住・エネルギーの地産地消をめざす

NPOバイオリイフの顧問

- ・ 顧問 田村正勝 早稲田大学社会科学総合学術院教授
経済学博士
- ・ 顧問 小西孝蔵 農林中央金庫 幹事
元農林水産省
農林水産政策研究所所長
- ・ 顧問 三木晴雄 ミヨシ石鹼株代表取締役社長
日本石鹼洗剤工業組合副理事長
- ・ 相談役 沖津 修 沖津修技術士事務所 代表
技術士（化学）、薬学博士
- ・ 相談役 飯島健二 飯島事務所代表 （小貝米製造販売）
- ・ 相談役 飯塚英夫 土地家屋調査士
茨城土地家屋調査法人 副会長

プロジェクトの目的 (1)

目的

このプロジェクトは、街のあらゆる社会生活の領域に於いて、「ゆたかで自然と人とが調和した、健康的な暮らしよいまち」への実現に向け、環境と経済の調和、環境保全、地域振興及び農業振興を確立し、持続可能な「資源循環型地域社会」を行政・事業者・市町民が協働して創造することを目的とする。

プロジェクトの目的 (2)

1. 食育・地産地消推進

栽培・搾油・利用・回収・消費
の循環に適した地域の特性
を活かす

有機栽培の推進

: 油粕の活用

国産油による、工業製品化

2. 休耕田畑の有効活用

3. 観光事業促進に伴う集客効果

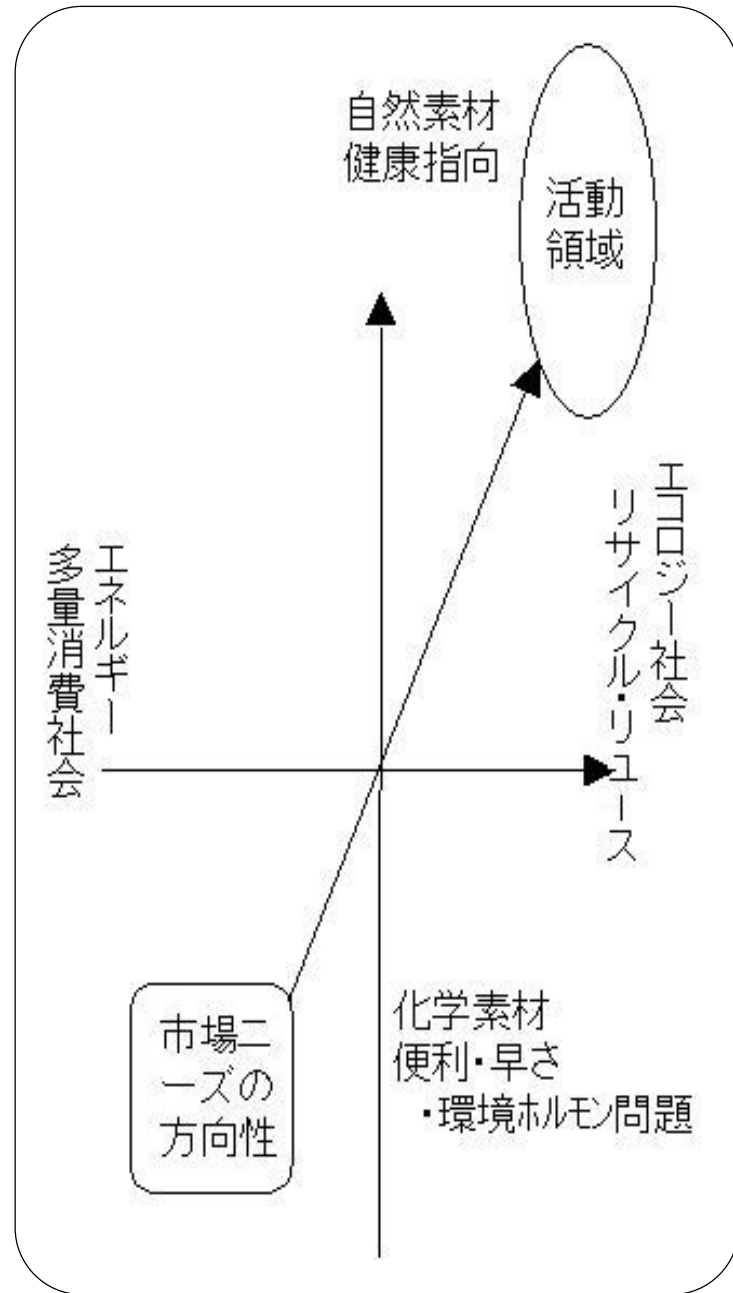
開花時期のイベント企画etc

4. CO2削減

新エネルギー利用促進
(BDF化)

化石燃料の使用削減・低公害推進

市内循環バス・農機・その他
ディーゼルエンジン仕様車
への活用



本プロジェクトは、地域資源となる菜種・ひまわりをもとに
観光振興、農業振興、新産業創造、景観向上、地球温暖
化対策、環境教育の推進といった多面的な効果が期待で
き、資源循環システムの構築を目指している。

菜種油・ひまわり油に着目した理由(1)

◆以前水田の裏作で菜の花を栽培・・・

以前、どこの農家でも菜の花を栽培し、菜種油を搾っていた

◆温暖化な気候のため、菜種・ひまわりの二期作が可能であり、土地の有効活用ができる。

茨城県の県南地域は比較的温暖で作物の栽培に適している

◆水田の転作率は約31%前後

国・市から多額の補助金が出ている……………しかし、実際有効な転作作物はあまりなく、近年は景観作物として単なる花を植えるだけでも補助金が支払われているのが実情。

◆「菜の花プロジェクトネットワーク」

2001年、滋賀県で環境負荷の少ない「資源循環型」の地域社会を目指して作られ、現在42都道府県、100以上の団体が加入する程の広がりを見せている。

菜種油・ひまわり油に着目した理由(2)

- ◆ **菜種油を食用油や洗剤の原料とするためには**
価格が高い為、**大量生産**(作付け面積の拡大)によりコストを下げ、る必要がある。必然的に廃食油の量が増え、BDF生産への利用につながる。
- ◆ **欧州ではBDFに課税しないことに加え、農家に補助金を支給して強力に推進**

BDFは近年の原油価格の高騰、地球温暖化のため、急速にその実用化が進められている。特に欧州では、フランス(89万KL)、ドイツ(80万KL)などで、主に菜種油の新油からBDFが生産されている

- ◆ **日本におけるBDFは**

廃食油を原料としたもので、**年間3000トン**程度作られている

菜の花栽培を推進している、他地域(例:青森県横浜町)では、搾油を遠方の市町村で行なっているのが現状
県南地域においては、栽培(休耕田畑)・搾油・消費(食用・石鹼、洗剤等原料・BDF利用)を市内で行なう条件が整っており、まさに地産地消・循環型を実現できる環境が整っている希少な地域であることを認識して頂きたい。

菜種油・ひまわり油について

・油菜の最適品種

キラリボシ(東北農研)

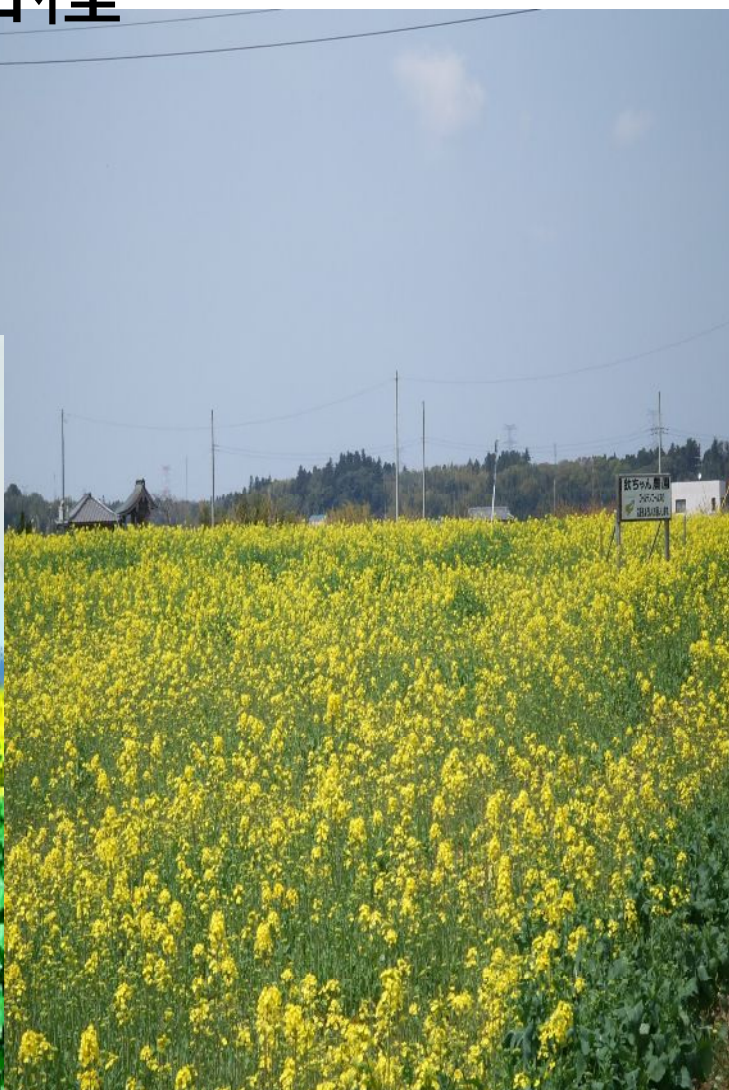
特色: 無エルシン酸 低グルコシノレート

T830(タキイ種苗(株))

特色: 無エルシン酸 高オレイン酸

・ひまわりの最適品種

63M80(春りん蔵)



写真提供: 中央農業総合研究センター(ナ)

菜種・ひまわりを咲かせて街おこし

① 地理的条件

- ・都心から1時間たらず

② 女性（観光客）の集客

（キーワード） ・花・水・緑・・

- ・春はチューリップ祭りとジョイント

- ・成田空港への着陸航路

（花による地上絵：Welcome to Japan）

③ 青森県横浜町

- ・年間2万人の観光客集客
（菜の花だけで）



天の時

地球環境とエネルギー
化石燃料を減らし⇒バイオマス
利用の時代へ

地の利

豊かな耕地面積 ⇒
休耕地畑の有効活用
仮に将来100Ha(目標)が油菜・ひまわりの
栽培 ⇒165トンの油(合計)が採取可能
循環バスやトラクターをバイ
オディーゼル燃料にて運行

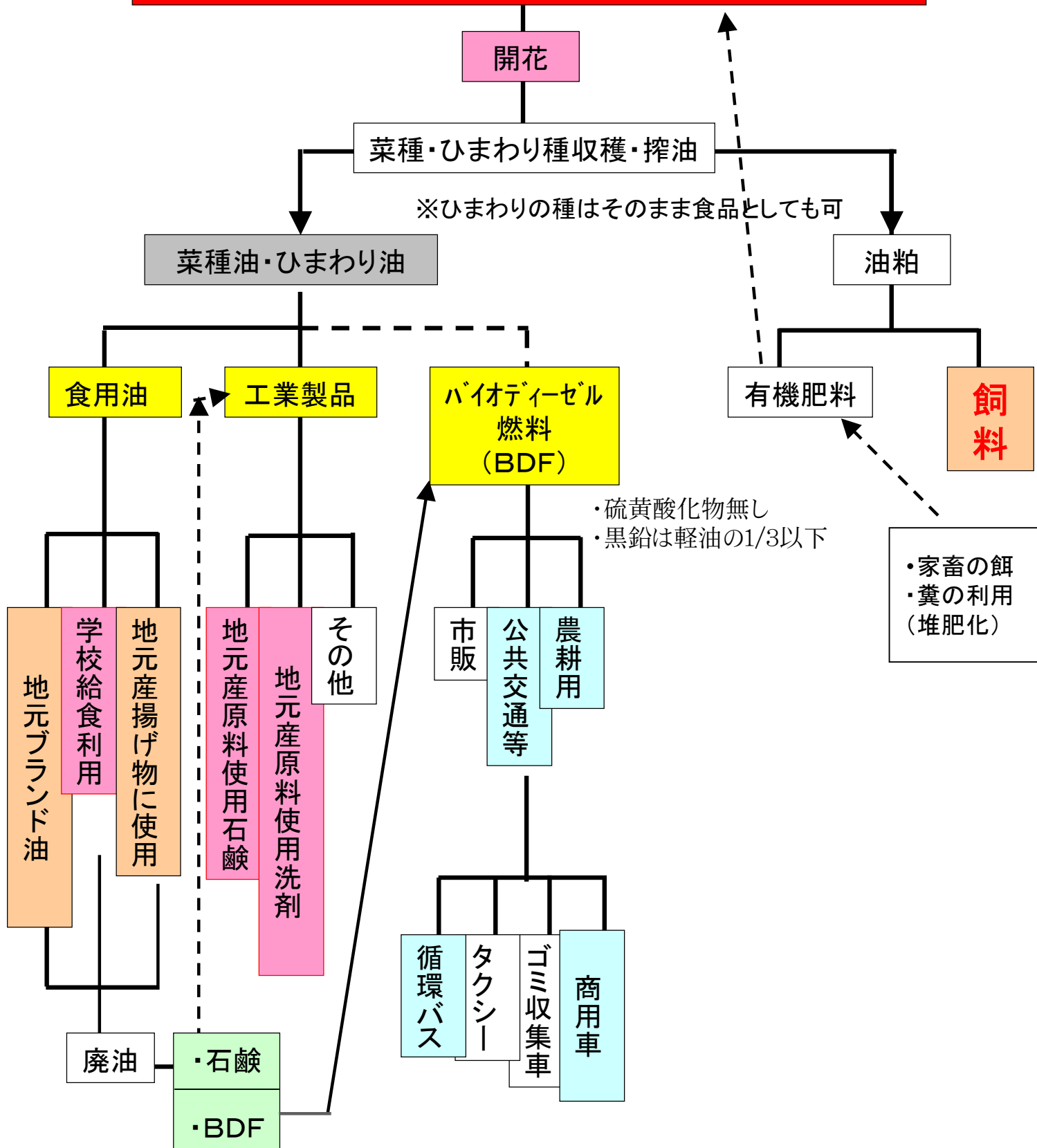
人の和

NPO組織
⇒産官学の連携(発起人)
⇒大きく広げたい

和⇔輪⇔環

菜種油・ひまわり油の利用・・・図式

休耕田畑の利用による菜種・ひまわり栽培



菜種油・ひまわり油の利用

バイオリフの輪



商工振興

新たなブランド商品

これらを用いた加工品等

○食用油・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(ナタネ油・ひまわり油)

石鹼・洗剤
菓子・加工食品
レストラン等での使用

○はちみつ・・・・・・・・・・・・・・・・

国産蜂蜜
地元銘菓(菓子)
地元産石鹼・洗剤

○菜花(間引菜)・・・・・・・・

加工食品
レストランでの使用

○食用ひまわりの種・・・・・・・・

地元銘菓(菓子)

○油粕・・・飼料と肥料・・・

肉・乳製品・卵
有機野菜

観光・教育

- 開花時期(4月・8月)に非常に多くの観光客
(地の利・首都圏から1時間程度で来れる)
参考:青森県横浜町:2万人の観光客集客:
イベント時(2004年実績=菜の花のみ)

- 特に国道・県道などは、水田地帯を通る
 - ・沿線にナタネ・ひまわりを栽培
 - ・BDFを燃料に使用すると、「エコツアー」
となる
- 周辺地域において
 - ・地元産菜種油・ひまわり油の販売
 - ・ナタネ・ひまわりの迷路等のイベント開催
 - ・地元農産物の紹介・販売

- 文化施設において……イベント開催・音楽との融合
- 開花～BDFまでのサイクル……環境の勉強

プロジェクトの位置付けと活動事業

申請補助金:これらはあくまでも例です

**バイオ
ライフ**

統括(企画・調整・運営)
バイオスタウン化構想
(農水省)

地域バイオマス利活用
交付金

菜種・ひまわり
栽培事業

栽培
品質管理
搾油

⋮

地域活性化
のための
バイオマス
利用技術
の開発
(農水省)

菜種ひまわり油
製造及び商振興
事業

稲敷ブランドの販売
稲敷産菜種油・ヒマワリ油
稲敷産蜂蜜
稲敷産石鹸・洗剤
(茨城大・筑波大と
の連携)

マーケット戦略

都市エリア
産学官連促
進事業
(文部省)

廃食油
リサイクル事業

廃食油回収
BDF製造
BDF販売

⋮

エコ燃料利
用促 進補
助事業
(環境省)

BDF利用
推進

市内循環バス
農機燃料
大口需要先
(企業等)
一般市販

⋮

地域新エネ
ルギー等導
入加速化
支援対策
費補助金
(経産省)